

趣旨説明

探究的な学びから研究へ

—教育改革のジャンピングボードとなるためには—

長谷川 豊（大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長／京都府立大学 公共政策学部 准教授）



（スライド1）第19回のフォーラムを開催するにあたって、趣旨説明をさせていただきます。

サブタイトルに刺激的なテーマを掲げさせていただいていますが、今回のフォーラムでなぜこのテーマを設定したのかをお話しさせていただきます。

（スライド2）この間、高等学校教育、大学教育、そして大学入学者選抜の三位一体の高大接続改革が進められています。その中で、昨年度から大学入学共通テストが実施され、今年度は2年目になります。

（スライド3）新たなカリキュラムに基づく2025年度からの入試のあり方も議論が進んでいるところです。その中で、もう一度、2014年から進められてきた高大接続改革を振り返ります。

小学校、中学校、そして来年度からは高等学校でも、新たな教育課程に基づいて授業が始まっていく中で、高校と大学の教育の接続をどのように考えていくのかが大きな課題でありま

す。

（スライド4）第15回、第16回のフォーラムは、学習指導要領の改訂を受けて「いま育成すべき力は何かをともに考える」というテーマで2回にわたって行ってきました。かなり大胆な教育課程の改訂でしたので、そのことにまず共通理解を持ちながら、高校・大学がどのようにつながっていくべきなのかを考えてきました。

（スライド5）昨年、一昨年の、第17回、第18回のフォーラムでは『『教育の接続』としての入試改革』と題して2回にわたって取り組んできました。

この教育接続の中で、大学入試という問題があります。大学入学共通テストが昨年度から始まり、さまざまなトラブルがあり当初予定されたことができなかったことで、昨年度から今年度にかけて幾つもの会議が開かれ、提言が出されたり、取りまとめが行われたりする中で、当初に予定されたこととは大きく変わってきました。

けれども、入試改革という議論でとどまらず、高校生・大学生の学びがどのようにつながっているのか、大学入試が断ち切ることなく、その学びが続いていく形にするにはどのようにしたらよいのかを、正面を切って取り上げて考える時期であろうということで、今年度は「探究的な学びから研究へ」というテーマを掲げてフォーラムを開催するに至りました。

（スライド6）大学入試のあり方に関する検

討会議の提言でも、教育の一環としての入試ということが、原則の3つ目で掲げられています。今回のフォーラムでも、大学側から、そして高校側から、どのようにつながっているのかをしっかりと押さえたいと考えています。

(スライド7) そこで重視されるのは、高等学校の新学習指導要領でも取り上げられる「探究的な学び」です。総合的な探究の時間が設けられる中で、小・中学校のように「探究的」とは言わずに「探究の見方・考え方」と、まさしく「探究」と正面から掲げて行うことになっています。しかし「探究」という名前を冠した部分にとらわれ過ぎてはいないか、そうした科目に焦点が当てられているだけではないかという問題もあります。

(スライド8) 一方で、総合的な探究の時間を設けるときの、現場では、実際にどのように授業を構築していけばよいのかという問題がございました。今年の4月の時点でも、なかなかカリキュラムが分からない、何から始めたらよいのか分からないという声も随分あった中で、あと数カ月で実際に始めていかなければならない時期にあります。

やはりこの問題「探究的な学び」を正面に掲げて考えていく必要があると思います。

(スライド9) 学習指導要領の詳細を見ますと、高校に求められるのは「質の高い探究」だと述べられています。解説の部分では「探究の過程が『高度化』する」「探究が『自律的』に行われる」の2つに触れられています。

(スライド10) 一方、教科として「理数探究基礎」「理数探究」という科目がありますが、理科と数学の探究のプロセスのイメージが示され、この中で「振り返り」の必要性が取り上げられています。順序立てて探究するプロセスがあるわけですが、最後に振り返りをする事で、さらに高次化していくこと、次の探究へと進んでいくことが、教科のレベルでも、総合的な探究の時間でも語られています。

(スライド11) 学習指導要領の解説の中では、探究のプロセスの部分が4つありますが、少し踏み込んで言えば、振り返り、考えや課題の更新がこのサイクルをさらに深めていく、高度化していく、自律化していくことにつながるのではないのでしょうか。この点がもう少し記述されても良かったのではないかと考えます。

(スライド12) このように見てくると、小学校や中学校とは違って「探究の見方・考え方」は高等学校における独自性です。アンダーラインを引いていますが「統合的に活用する」「複雑な事象」「自己の在り方生き方」という点で、高校生ならではの「探究の見方・考え方」を追究していこうと、意識されていることがわかります。

(スライド13) 総合的な探究の時間の解説でも、3点にわたって、教科との違いをはっきりさせ、それぞれの特徴を示しています。総合的な探究の時間で行う部分と教科で深める部分、同じ探究という言葉を使っている、位置付け方やニュアンスが随分違ってきます。この点を踏まえておく必要もあると思います。教科と総合的な探究の時間を含めた教育活動の中で、どのように「探究的な学び」を深めていくのかが問われています。

(スライド14) 教科のレベルと総合的な探究の時間のレベルで、それぞれのプロセスの違いを示しています。

(スライド15) そのようなことを意識しながら、実際に高等学校における探究的な学びが、大学の研究にどのようにつながっていくのか、高校生・大学生一人一人にとって何をもちたすのかを真剣に考える時期に来ています。それぞれの立場を超えて、一緒に考えていく場を、このフォーラムが提供したいと考えています。

今日は、大学の側から関西大学の山田先生、高等学校の側からは兵庫県立村岡高校の岡田先生、京都府立宮津高校・宮津天橋高校の多々納先生をお招きして、実践を踏まえて、高校か

ら大学への接続をしっかりと考えていきたい
と思います。特に地域に根差し、地域をつくる
実践をお聞きできると楽しみにしております。
先生方、どうぞよろしくお願いいたします。私
からは以上です。ありがとうございました。

スライド1

第19回 高大連携教育フォーラム

探究的な学びから研究へ

～教育改革のジャンピングボードとなるためには～

趣旨説明

大学コンソーシアム京都 高大連携推進室
長谷川 豊(京都府立大学)

スライド2

本フォーラム趣旨

- 急激に変化する時代の中で求められる **資質・能力を育むべく、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の三位一体で改革が進められている。**
- 大学入学共通テストでは思考力・判断力がいっそう問われるようになり・・・**

スライド3

「高大接続改革」=三位一体の改革

2014中教審答申 2015高大接続改革実行プラン
2016高大接続システム改革会議「最終報告」

- 国際化、情報化の急速な進展
↓
社会構造も急速に、かつ大きく変革。
- 知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。
- 社会で自立的に活動していくために必要な「学力の3要素」をバランスよく育むことが必要。

[学力の3要素]

- ① 知識・技能の確実な習得
- ② ③を基にした
思考力、判断力、表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

学力の3要素を多面的・総合的に評価する

大学入学者選抜

高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革

高大接続改革

学力の3要素を育成する

高等学校教育

高校までに培った力を更に向上・発展させ、社会に送り出すための

大学教育

(出典)大学入試のあり方に関する検討会議(第18回) R2.11.27[参考資料2]大学入学者選抜関連基礎資料集

スライド4

学習指導要領改訂の考え方 2016中教審答申 2018高校改訂

能力の3つの柱

育むべき資質・能力

学びが人生活や社会に活かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

第15&16回
フォーラム
「いま育成すべき力は何かをともに考える」

何ができるようになるか → 成果

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

素材 → 何を学ぶか → 方法 → どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※ 本資料に基づいて、各都道府県教育委員会が大学入学者選抜に関する方針を公表している。その方針は必ずしも一致しない。また、本資料はあくまで参考資料であり、実際の入学者選抜の運用は各都道府県教育委員会に委ねられている。

スライド5

大学入学者選抜改革 この間の動向

- ◆「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入試に転換
- ◆「大学入学共通テスト」2020年度開始 2024年度新学習指導要領対応
- ◆「大学入試のあり方に関する検討会議」提言 2021年7月

	【2019年度まで】	→	【2021年～ 2025年度～】
共通テスト	マークシート式問題のみ		記述式問題(国語・数学)の導入
	英語「読む」「聞く」のみ 配点:筆記200点 リスニング50点		4技能評価へ転換 民間の資格・検定試験活用
個別選抜	学力の3要素が評価できていない入試		「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」審議のまとめ 2021年3月 ■引き続き学力の3要素を多面的・総合的に評価する方向で改善 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」のみの評価ではなく3要素で ■調査書の記載内容等の見直し・簡略化、電子化
	早期合格による高校生の学習意欲低下		

第17回&第18回フォーラム
「教育の接続」としての入試改革

スライド6

大学入試のあり方に関する検討会議 提言(概要) 2021年7月8日

第1章 大学入学者選抜のあり方と改訂の方向性

- 1. 大学入学者選抜に求められる原則**
 - 原則① 当該大学での学び・卒業に必要な能力・適性等の判定
 - ・各大学が主体的に実施し、一定のルールをガイドラインとして定めることも重要
 - ・卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針と連動した入学者受入れの方針の策定の必要性
 - ※ 既述しない限り、大学と入学者とが互いにメリットを追求するものとする
 - 原則② 受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保
 - ・同一選抜区分での公平な条件での選抜、入試情報の公表(形式的公平性の確保)
 - ※ 同一日・同一試験期間による選抜のみでなく、明確な選抜基準の下、多様な選抜資料を活用することを含む
 - ・地理的・経済的条件、障害のある受験者への合理的配慮 等(実質的公平性の追求)
 - 原則③ 高等学校教育と大学教育を接続する教育の一環としての実施
 - ・高大の円滑な接続(生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力、表現力等の涵養を目標とする教育改革に資する選抜)
 - ・入学志願者への教育上の配慮(教科・科目等を必要とする場合は2年程度前の学習の必要性、入試日程等の連携)
- 2. これまでの教訓を踏まえた大学入学者選抜の改訂に係る意思決定のあり方**
 - (1) 議論の透明性、データやエビデンスの重視、多様な意見聴取
 - (2) 実現可能性の確認、工程の柔軟な調整
 - (3) 高等学校教育から大学教育までの全体を視野に入れた検討の必要性
- 3. コロナ禍での大学入学者選抜をめぐる状況変化**
 - (1) 大学入学共通テストの重要性の高まり(セーフティネット)
 - (2) 面接試験等におけるオンライン化の進展
 - (3) 緊急時に入試日程等を協議する仕組みの強化の必要性
 - (4) 大学入学者選抜に活用される資格・検定試験の安定的実施の協議の必要性
 - (5) 教員等の入学時期別化への対応の必要性
- 4. 入試システム全体に自配りした総合的な検討の重要性**
 - (1) 一般選抜と総合型選抜・学校推薦型選抜との役割分担
 - ✓ 総合型選抜・学校推薦型選抜: 一般選抜と比較して丁寧で多面的・総合的な選抜(口頭試問、小論文等の高度な記述式問題の出題等も可能)、入学時期の弾力化にも柔軟に対応可能、感染症対策の向上等の意義
 - (2) 一般選抜における大学入学共通テストと個別試験との役割分担
 - ✓ 共通テスト: 大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度の評価を主とし、安定的で確かな実働を一度重視(セーフティネット)
 - ✓ 個別試験: 各大学の入学受入れの方針に基づき、当該大学が必要とする能力・適性等の評価を一度重視

スライド7

本フォーラム趣旨

- ・・・高等学校の新学習指導要領では探究的な学びが重視されている。
- 探究的な学びが、高等学校と大学、地域社会で連携して取り組まれている一方、「探究」を冠した時間や科目の進め方にもみ捉われてはいないだろうか。

スライド8

総合的な探究の時間の準備をしていない理由(2021年4月時点)

(N=76)

カリキュラムが分からない	30.3%
何から始めればよいのか分からない	21.1%
ノウハウがなく授業設計ができない	15.8%
まだ先のことなのでやなくてよい	13.2%
担当の教諭がない	7.9%
探究の時間の重要性を感じていない	7.9%
その他	32.9%

調査テーマ:「総合的な探究の時間」に関する高校教員を対象とした調査
 調査方法:インターネット調査
 調査期間:2021年4月9日(金)~11日(日)
 有効回答数:全国の教職員200名
 実施機関:株式会社クロスマーケティング
 出典:Edv Future株式会社が2022年度から新設される「総合的な探究の時間」に関する意識・実態調査を実施
 ~全国の高校の38%は探究学習の準備をしていないという実態が明らかに~ 2021年5月11日
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000065750.html>

スライド9

高校において求められる「質の高い探究」
 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編』(平成30年7月)より

- 探究の過程が「高度化」する
 - 探究において目的と解決の方法に矛盾がない (整合性)
 - 探究において適切に資質・能力を活用している (効果性)
 - 焦点化し深く掘り下げて探究している (鋭角性)
 - 幅広い可能性を視野に入れながら探究している (広角性)
- 探究が「自律的」に行われる
 - 自分にとって関わりが深い課題になる (自己課題)
 - 探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる (運用)
 - 得られた知見を生かして社会に参画しようとする (社会参画)

スライド10

高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の学習過程(探究の過程)のイメージ
 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 理数編』(平成30年7月)より

スライド11

探究の過程と生徒の学びの姿
 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編』(平成30年7月)より

- 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。
- 探究の過程を経由する。
 - ① 課題の設定
 - ② 情報の収集
 - ③ 整理・分析
 - ④ まとめ・表現
- 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

スライド12

総合的な探究の時間の目標と「探究の見方・考え方」
 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編』(平成30年7月)より

- 目標 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する
- 「探究の見方・考え方」 各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統一的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の在り方生き方を問い続けること

スライド 13

総合的な探究の時間の探究と教科・科目の探究との違い
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編』(平成30年7月)より

- ① 学習の対象や領域は、特定の教科・科目等に留まらず、**横断的・総合的な点**
 総合的な探究の時間は、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象としている
- ② 複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究するという点
 総合的な探究の時間では、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を様々な角度から俯瞰して捉え、考えていく (cf.教科・科目の探究は、その教科・科目における理解をより深めることを目的に行われている)
- ③ 総合的な探究の時間における学習活動が、**解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題**に対して、**最適解や納得解を見いだすことを重視しているという点**

スライド 14

「理数探究」と「総合的な探究の時間」における探究の過程
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 理数編』(平成30年7月)

理数科	総合的な探究の時間
① 課題の設定 自然や社会の様々な事象に関わり、そこから数学や理科などに関する課題を設定する。	① 課題の設定 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。
② 課題解決の過程 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、仮説の設定、検証計画の立案、観察、実験、調査等、結果の処理などを行う。	② 情報の収集 必要な情報を取り出したり収集したりする。
③ 分析・考察・推論 得られた結果を分析し、先行研究や理論なども考慮しながら考察し推論する。	③ 整理・分析 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。
④ 表現・伝達 課題解決の過程と結果や成果などをまとめ、発表する。	④ まとめ・表現 気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。
※ 指導上の配慮事項 探究の過程は①～④の必ずしも一方向の流れではない。探究のための具体的な方法を固定して考えず、探究の過程を適宜振り返りながら改善させる。	※ 指導上の配慮事項 探究の過程は①～④が順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。

スライド 15

本フォーラム趣旨

- 高等学校における探究的な学びは、生徒・学生一人ひとりに何をもち、大学での研究にどのようにつながっていくものなのか。
- 本フォーラムでは、高等学校から大学を通じた探究的な学びのあり方とそのつなぎ方について、生徒・学生・教職員が立場を超えて同じ場でもに考え、探究的な学びの可能性を探りたい。